

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第94号(2015. 1.1)
事務局川西地区自主防災会

新春対談

香川県危機管理総局長の泉川雅俊氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩崎正朔氏のお二人で、「香川県の安心安全なまちづくりを目指して」と題し新春対談を行います。司会は、危機管理課副課長の秋山浩章さんです。



【司会】

まずは、平成27年新年の抱負をお聞かせ下さい。

【泉川危機管理総局長】

あけましておめでとうございます。

日頃より、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様には本県の防災行政に格別のご理解とご支援をいただいております。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

特に、自主防災組織の活動強化に当たっては、県内各地の自主防災組織に経験豊富な協議会のメンバーを派遣し、助言等を行う「自主防災組織活動・結成促進フォローアップ事業」をはじめ、自主防災組織リーダー研



修会での指導、シェイクアウト訓練等を通じ、ご尽力をいただいております。本年もよろしくお願いいたします。



新年の抱負と言うことで、昨年は、台風11号が本県を直撃し、県では、10年ぶりに災害対策本部を立ち上げることになり、怪我をされた方、住居を損壊された方などがおられました。大きな被害はありませんでした。その他の台風などでも大きな被害等もなく、安堵しています。しかしながら、全国的には、2月の関東地方を中心とした大雪被害をはじめ、8月に広島県で発生した大規模な土砂災害や9月には御嶽山の噴火災害など、予期

しない災害が続発し、日頃からの備えとその際の危機管理対処能力の大切さを改めて認識しました。

災害時には自分自身が助かることから始まりますが、「共助」という地域での助け合いが非常に大切であることを県としても改めて認識したところです。

自主防災組織については、今年度、活動カバー率が 80.8%となり、岩崎会長をはじめ協議会の皆様のご支援により、「せとうち田園都市香川創造プラン」の平成 27 年度の目標 80%を 1 年前倒して達成できたことに感謝しています。

今年は、カバー率の向上はもとより女性の視点も踏まえた自主防災組織の活動をより一層充実、強化するための取組みを進めたいと考えています。

【岩崎会長】

あけましておめでとうございます。新年の抱負でございますが、県のご指導を得て、県内の自主防災組織の底上げを実施していきたいと思っています。具体的には、フォローアップの行き届いていないエリアがあり、8 市 9 町のうち、ゼロエリアを解消していきたいです。

2 つ目は、かがわ自主ぼう連絡協議会で会報を発行していますが、今年の 7 月に 100 号を迎えるので、県のご指導を得て簡単な記念事業などをしていきたいと思っています。

また、国が実施している防災まちづくり大賞が今年第 20 回目と、節目を迎えることから、今までは、川西自主防災会で取り組んでいましたが、県の「かがわ自主ぼう連絡協議会」として、初めて挑戦したいと考えています。このことにより、会員の士気が高まることを期待しています。



【泉川総局長】

4 月にかがわ自主ぼう連絡協議会を訪問した際に、会員の方から市町単位で統括組織の創設を求める声を伺いましたが、横への広がり各市町が意識していただけるとありがたいと思います。かがわ自主ぼうの皆さまが訪問していない地域をなくすことにより、核となる組織ができることに繋がりますので、期待するとともに県として支援していきたいと思っています。

【岩崎会長】

防災まちづくり大賞の 3 冠を達成し、次は 4 冠達成を目指したいと思っています。厳しいハードルですが、かがわ自主ぼう連絡協議会は県全域を組織として活動しており、そうした例は全国的にもあまりないことから、他の地域のモデルとなるよう東京へ行き、挑戦したいと思っています。

【泉川総局長】

とても頼もしく思います。全国に「かがわ自主ぼう、有り！」となるよう頑張ってください。県としてお手伝いできることがあれば、相談していきながら進め

ていきたいと思ひます。

【司会】

県がお願いしている県内自主防災組織へのフォローアップ事業を約3年行っていただきましたが、課題は見えてきましたか？

【岩崎会長】

各自主防災組織が、継続して独り立ちするよう、周りの組織の核となるようフォローアップをしています。どれくらい手をかければ独り立ちできるかを考えながら実施しています。早く手を放すと活動がトーンダウンする可能性もあるなかで、3年程度フォローアップしてきた組織からモデル的に手を放して独り立ちさせることなどを考えており、このことを課題と考えています。

また、県全体としてバランスよくフォローアップできたら良いのですが、地域ごとに偏りがあります。活動前に市町の担当者と密に調整をしないといけないと思っています。

【泉川総局長】

市町も協力しようと思っています。自立ということになると、地域で、これからいわゆる団塊の世代の方々が活躍できるようになります。人材の掘り起こしが重要ではないかと思ひます。そうした時に、市町の情報や人が集まるコミュニティセンターなどを活用して、人材情報の収集など自立の契機になればと思ひます。

【岩崎会長】

学校と地域が連携して防災活動を実施している所でも、学校が主導している地域では、校長先生の転任で活力が一気に落ちることがあります。学校の活力がある間に、うまく地域が主導していけるようやっていく必要があります。

【司会】

フォローアップ事業の将来性についてお聞かせください。



【泉川危機管理総局長】

「自主防災組織活動・結成促進フォローアップ事業」は、平成25年度から実施をお願いしていますが、それ以外にも、『自主防災組織結成・活動の手引き』の作成や県内個別の自主防災組織に対する支援を行っていただいています。フォローアップ事業では、様々な地域でその場その場に応じて、自主的に実施できるよう、色々なパターンのノウハウを教えていただければより一層の活性化に繋がり、いざという時に活躍していただけるようになると思ひますので、引き続きフォローアップ事業の実施をお願いしたいと考えています。

【司会】

どのようなことが自主防災組織の活性化につながると思ひのか、お聞かせ下さい。

【岩崎会長】

我々も組織を立ち上げて13、4年が経ちましたが、立ち上げて4、5年位の頃にマンネリ化しました。それを打破するために、防災まちづくり大賞への応募を行いました。



したが、一般的に自主防災組織のリーダーは新しい人を組織に入れることを考えていないと、組織がマンネリ化します。新しい人を入れることが必要です。

また、総局長も仰っていましたが、女性の力が大事だと私も考えています。女性が参加することで組織が明るくなり、その方の持っている専門性で組織の幅が広くなり、また、カリキュラムの提案などでも男性の気づかない女性の視点が入り、きめ細かい取組みができています。

さらに、防災だけを年中続けることは難しいので、それ以外の交流も防災会の中で行うことが効果的だと思います。例えば、年に1、2回、コンサートや山登りなどを一緒に行くことなどが活性化につながると思います。

【泉川総局長】

いざという時は、そうした繋がりが大切だと思います。

昨年の長野県地震で、白馬村の救助の様子をテレビで拝見した時、地域の方、警察の方、消防の方と2人ずつ位で救助している姿を見ましたが、現実的には、近所の方が助け合うことが大災害においては非常に大切であることを改めて認識しました。

組織の中に新たな人材を入れるというお話がありましたが、県では今年の2月に自主防災組織のリーダー研修会を実施しますので、ご相談しながら実践的な研修にしたいと思っています。

また、県では防災士の養成にも力を入れております。県内には約900名の防災士がおり、各種災害の防災知識やノウハウを必要としている自主防災組織等と防災士とのマッチングのようなこともできないかと考えています。

そのためにも、自主防災組織の実態を把握する必要があると思っており、そうした中で具体的な課題が見えてくるかと思っています。

【岩崎会長】

活性化に欠かせないこととして、自分達のところだけでなく、全国的に先進的に取り組んでいる組織にアプローチすることも大切で、新たなネットワークができ、力が出てきます。

県内外を見て、斬新な手法を実施している団体との交流などが大事です。

兵庫県に素晴らしい組織があって、我々も資料を頂いたりしたことがありました。



【司会】

この10年、県民の防災に対する意識は随分と変わったと思いますが、自主防災組織の立場として、どのような取組みに効果があったのか、お聞かせ下さい。

【岩崎会長】

小・中・高等学校、特に小学校との連携は、新しい視点が得られたり、子ども達の澄んだ目で取り組んでくれるところ、将来どこかで役に立ってくれるという思いも抱け、我々自身の取組みのすそ野が広がったように思います。

出前講座は、多い時で、年間70～80回実施しています。平均的に毎年40～50回、地域に出掛けて実施しているのですが、自分達の経験談を2時間程度、お話すことで、様々な地域に浸透しているように思います。

最近では実施していませんが、6、7年前に、4年間ほど、自分たちが1年間取り組んできた事例を25枚から30枚程度のパネルにまとめて、県下全市町へ各々1週間程度、ロビーを借りて展示していました。役所に来られた方に見ていただいて、自主防災組織の大切さを普及できたと思います。地道にしてきた活動から芽が出てきたと思いますが、子ども達と連携してきたことが大きいと思います。

【泉川総局長】

今年は、防災教育ということで、子ども達にどうアプローチするかを考えており、県教育委員会と相談しながら、踏み込んでいきたいと思っています。学校を核に、自主防災組織、地域の消防団、防災士など様々な形で連携して行ければ、地域に沿う、長続きする取組みができると思っています。

【司会】

県の施策として県民の防災意識向上に向けて、どのようなことをこれまで実施されてきましたか？

【泉川総局長】

広報誌や新聞などのマスメディアを通じた啓発をはじめ、7月に設定している県の防災週間にあわせたシンポジウムや防災フェスタの開催などに取り組んでいます。

また、一昨年から、県民いっせ地震防災行動訓練、いわゆるシェイクアウト訓練



を実施しており、昨年11月5日に実施し、岩崎会長をはじめ、協議会の皆様のご協力もあり、22万人を超える県民の皆様にご参加頂き、非常に頼もしく感じました。

昨年は、プラスワン訓練ということで、シェイクアウトプラス避難訓練を実施し、そちらの方にも約15万人のご参加がありました。全国的にも広がりを見せているので、是非続けていきたいと思えます。



また、新たな取組みとしては、昨年7月に地震体験車を更新し、愛称とデザインを公募したところ、愛称は「ユスラスかがわ」に決まり、地域での防災訓練などにご利用いただいています。

さらに、今年の広報としては、東日本大震災の映像や県の被害想定状況、それら被害をどうやって減らすかの対策を理解頂けるDVDを年度内に作成することとしています。このDVDは、大人向けだけでなく、子供向けのナレーションと2通り作成しようとしており、自主防災組織の活動でもご活用いただきたいと思えます。

さらに、今年の広報としては、東日本大震災の映像や県の被害想定状況、それら被害をどうやって減らすかの対策を理解頂けるDVDを年度内に作成することとしています。

さらに、県民の皆様が視覚的にご理解いただけるよう県消防学校の中にある防災センターに津波の高さを示す懸垂幕の設置準備を進めています。

また、地震津波対策の行動計画を現在作成中であり、今後3年間で、防災減災対策を短期集中的に取り組み、県全体を挙げ地震・津波への対策を着実に実施していきます。

我々は、特に県民の防災意識の向上を重要と考え、県民の皆様が地震・津波を「正しく知り」、「正しく判断し」、「正しく行動する」ことができるよう取り組んでまいりたいと考えています。

【司会】

かがわ自主ぼう連絡協議会の将来展望を聞かせて下さい。

【岩崎会長】



今まで、川西自主防災組織が主体となっていましたが、いずれ限界がくるので、早目に8市9町の中で地域の核となる自主防災組織を作っていきたいと思えます。

三豊市、坂出市などではそうした組織ができてきているので、そうしたことを念頭に、核となり得る組織には特に力をいれて取り組んでいきたいと思えます。

また、8市9町の自主防災組織同士で情

報伝達訓練などができないかと思っています。巨大災害の際には、太平洋側への支援の民間の窓口として、活動できるようにしていきたいです。

さらに、今は香川県内ですが、今後、四国四県、中四国で連携を広げていければと思います。

【司会】

本日は、新春対談ということで、大変お忙しい中、香川県危機管理総局長 泉川雅俊様、かがわ自主ぼう連絡協議会会長 岩崎正朔様、誠にありがとうございました。これもちまして、新春対談を終了させていただきます。



本年もよろしくお願いいたします！

事務局だより

平成27年1月



かがわ自主ぼうの最近の活動を紹介します。

防災なんでも相談会を開催

初めての試みでさぬき市志度町、津田町の自主防災組織 107 団体を対象に「防災何でも相談」を開催します。

エリア外の参加もお受けしますので、ふるってご参加下さい。

日 時：1月15日(木)と1月16日(金)
午前10時並びに午後1時30分より



ジャパン・レジリエンス・アワード (強靱化大賞)2015 にチャレンジします。

一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会では、強靱化（レジリエンス）社会構築へ向けた取組みとして、「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)を創設。

全国各地で展開されている”強靱化”（レジリエンス）に関する先進的な活動を発掘、評価し、表彰する制度です。

この制度に「かがわ自主ぼう」として、この4~5年取組んできた内容をとりまとめ、応募することとしました。

賞としては「グランプリ」「金賞」「優秀賞」があります。

一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会

<http://www.resilience-jp.org/>

